

学校文化の改革

より良い学校文化を築くためにこれからしていきたいこと。

NOBURO HAGIWARA OCT 05, 2019 09:21PM

教員側の都合

多くの学校での計画、活動、評価が、教員都合によるものなんだと、つくづく感じる話題ばかりでした。

Peter Sengeさんはどこかの学校に関わっている、とかありますか？

今日の感想

学校文化というのは、正しいか正しくないかと考えることをやめてしまっているのかもしれないと思いました。今日は違う校種の方や学校とは違う立場の方の話を聞いたり、自分の立場から思うことを話したりすることで、新たな発見がありました。学校現場は毎日ほんとに忙しくて、「減らす」を考えていきたいです。

今日はありがとうございました。 伏屋

聴覚優位

特別支援教育の勉強を始めて半年になり、読み書き障害について研究したいと思っています。私たちが気づいていないだけ、あるいは気づいてるけどどうしていいかわからない、耳からの情報の方が理解しやすい聴覚優位の子どもたちが、他の生徒と同じように小テスト形式のものを受けられる機会を作りたいと思っています。

今回のTech Workshopで教えていただきたいclasskickで音声付き単語テストに興奮してしまいました。

同じ画面で、文字を見て書いている生徒もいれば、イヤホンして聞いて書く生徒もいて、それでいい、という前提でできるなんて、自然な合理的配慮ですね。やってみます。

創造力

最後に紹介された大村はまの言葉が一番突き刺さりました。

芸術科はどうしても作品至上主義に陥りがちですが、そこをねらうのではなく力そのものをつけることに芸術教育の本質があると思います。

今日は今まさに自分が取り組むべきいくつかの課題のヒントが見えた気がしました。いままで実際に体験してきたことや研究講座を通して学んできたものを自分なりに咀嚼して改革していきたいと思います。

学校文化とは、自分たちが何に向き合っているのかということを考えさせられた。それと合わせて、基本的な信条、仮説をどのように設定して考えるのかという重要性和難しさを実感した。現場に戻ってやるべきことはまずは対話をしながら、お互いに考えていることを共有し合うことから始めていきたい。

副教材について深く考えていませんでした。再度副教材を使う意味を生徒と一緒に検討していきたいです。また、そもそも学校文化とは何か？ということと同僚とはなして目に見えていない文化を可視化して変えて方がいいのか残した方がいいのか考えていきたいと思えます。

そもそも論

よく話をする事かなと思います。単純なことかもしれませんが、なかなか時間がなく「なぜ、、、なのか？」や「そもそも、、、」という話をする機会が少ないと結局は思考停止に陥ったり、意味や本質を理解せずに行っていたりすることに繋がります。

こういった姿を私たち指導者（大人）は学習者（子ども）に見せてはいけませんね。学習者たちには私たち大人がよく考えている姿を見せたいなと思いました。

今年度転勤して、改革したい文化が1つあります。職員が会議であまり発言しないんです。

「もっとみなさん意見言いましょうよ」を言い続けるだけではうまくいかないようです。

少し悩んでみます。ありがとうございました。

感じたこと

ステークホルダーということ考えたときに、本校には"地域"がどうも欠けているように感じました。

伝統的な教育構造の中で、壊すことのできるものを1つでも2つでも見つけて新しいものにすることで、道が拓ける気がします。それについて、What if...というポジティブに考える機会を学校で持ちたいと思います。「理想を語るだけやろ」と言う先生たちもいますが、それを語れなくなったら教師としておしまいだと思います。

授業を実践するにあたり、「社会とのつながり」をさらに意識する必要があると感じました。

ありがとうございました。

千里国際 岡本

今日も楽しかったです。

学校の文化を変える。非常に難しいことだと思います。今現在の文化は、自然発生的に長い歴史の中で形成されてきたものであり、その文化自体に疑問を感じていないからです。酸素がなくなって初めて酸素

のありがたみを感じるように、当たり前前にそこにあるものに対して疑問を感じないのだと思います。社会が変わりにつれて、徐々に文化も変わっていくでしょう。でもそれではだめだと思っています。目の前にいる生徒が、社会に出たときに通用する教育をするのが学校の責任です。そうであるならば学校は常に社会のニーズや変化に敏感になり、自らの文化に疑問を持ち先んじてそれを常に変容させる努力が必要です。変化を許容できる、恐れない学校の文化を持ればいいと思います。不易と流行を常に意識し、変化し続けることを良しとする学校文化を形成したいです。そのために学校全体で取り組みたいです。ありがとうございました！！

Less is More

いま自分が実践していることのうち、無駄なものはたくさんある。副教材も生徒が宿題として自分で取り組むように課しているし、授業で扱える問題はほんのわずか。普通の授業で当たり前のようにやっていることも、私の授業ではかなり減らしたつもりではあったけれど、それが「本質的なのか」「誰のためなのか」「真実なのか」と問われるとまだ減らせるものはある。授業の形や評価の方法も生徒と相談しながら進めてきているが、まだ不十分であると改めて感じる事ができた。選りすぐったいいものだけを、授業でしかできないことを生徒とともに作り上げたいと思う。今日もありがとうございました。

これまでの学校文化とこれからの学校文化

もしも～ならば、で考えるとポジティブな意見が出てくる..。非常に納得しました。今までの学校文化を理解しながらも、これからの時代を生きていく子どもたちのために、教員が視点を変えながら学び続けていくことで、新しい学校文化の定義ができるのかとも思いました。まずは、自分自身の考え方と行動を見直して具体的な変化として周りに認知されるように、明日からの仕事に活かしていきたいです。

学校文化

学校文化ということを広く捉え、かつそれらを包括的に深く掘り下げ考えることのできる研究講座でした。テストのことや評価のことなどを再検討する動きは知っていました

が、今日はそのことを深く考え、自分自身腑に落ちることができました。本校で校則を全部なくす、というのは難しく思えますが、学校文化を再検討していかなければならない時期が来るかも知れないと考えています。そのときに今日のこの会で話し合っ得たものが少しでも生かせるようにしていきたいと思います。本日はありがとうございました。

茨田高校 小瀧 允

私のアクションプラン

- 生徒と一緒に築く、生徒に判断させる場面をつくる。
→生徒の学びたいを大切にするため
- 生徒の言葉を集める（授業アンケートを再考する）
→他者を納得させるエビデンスになるから、生徒に振り返って感じてもらう。evaluate（評価）して生徒の成長を祝うため
- 「もし～ならどうする」の問い立て
→自分ごとかに繋がるため。思考のトレーニングになるから。

私自身も文化を作り上げている一員

今日もありがとうございました。考え方がまた一歩前進したように思います。私自身も文化を作り上げている一員なので、できない理由を述べるのではなく、できる一歩を考えたいと思います。

できることからコツコツと

意思決定の効率を追い求めて、教員歴に関わらずじっくり議論する場がない。業務内容の断捨離やICTによる効率化を進めたいが、現在のポジション的にそれは困難である。今自分にできることは、授業や分掌など、自分が関わっている範囲で学んだことを実行すること。そして自分の考えを深めていくことだと思う。
